

子どもの死とグリーフケアについて考える 交流講座

グリーフケアを遺族ケアと考える医療従事者が少なくありませんが、小児の家族の多くは、あくまでそれはグリーフケアの一部と考えます。そこで、「当事者にとってのグリーフケア」とは何か？どの段階で、何を、どのように行うことが求められているのか？そんな検討を、テーマを変化させながら隔月で行っています。



第11回 二次的喪失・二次的問題への病院のやさしさ

内容 脳腫瘍になった長女（2才）の闘病から看取りを通して、特別な配慮は得られませんでした。その後、父親は「複雑性悲嘆」に陥り、のちに生まれた長男が不慮の事故で亡くなる前後から、病院でさまざまな配慮に恵まれました。とりわけ持病のある次女の主治医は、悲しみと困難を多くもつわが家に、寄り添い、支え続けてくれています。発作で救急搬送となった次女が、思いがけず、長男が眠るICUで隣のベッドに寝かせてもらえたことは、偶然とは思えぬ次女への贈り物でした。度重なる入院から虐待を疑われたときに親を護ってくれたのも、長男の元主治医でした。子どもを相次いで亡くした家庭が、医療のなかで、今もどう見守られているかお話しします。

発表者 「小さないのち」会員

対象 医療従事者

日時 2018年3月11日（日）10:45～13:00 **開場** 10:30

場所 関西学院大学梅田キャンパス 1005室 （茶屋町アプローズタワー10階）

定員 40人（要予約）

参加費 小さないのち（子どもを亡くした家族の会）の運営への支援として一口500円の寄付を3口（1500円）以上でお願いいたします。

申し込み・問い合わせ s-ayumi@pop21.odn.ne.jp 会代表 さかした ひろこ 坂下 裕子

主催 こども遺族の会「小さないのち」 <http://www.chiisanainochi.org/>